

## 世界の異常天候とその影響評価 (4)

(Climate Impact Assessment, February 1984)

## 1. 北米——高温・暴風雨(雪)

2月の北米大陸は大部分で温暖であったが暴風雨も多かった。カナダ南部では、気温が6~10°Cも平年より高く、暖房の需要が25%ほど減ったと見積もられている。合衆国の北東部と北部中央では住居用の暖房費が16億ドル(14%)も減少した。

一方、2月5日には合衆国北部のグレートプレーンズの諸州が激しいブリザードに襲われた。2月11, 15, 18日には、強風と地ふぶきを伴う吹雪が合衆国中央部のグレートプレーンズの諸州を襲った。また、2月26~29日にはカナダ南東部と合衆国東部が激しい吹雪に見舞われた。

2月11~16日には、カナダのオンタリオ州南部、合衆国の大西洋沿岸中央部、メキシコ湾沿岸の諸州で、融雪と大雨による洪水が発生した。

暴風雨(雪)による被害をまとめると、死者は60人以上、資産の被害は数千万ドルである。

## 2. 南米——大雨・洪水

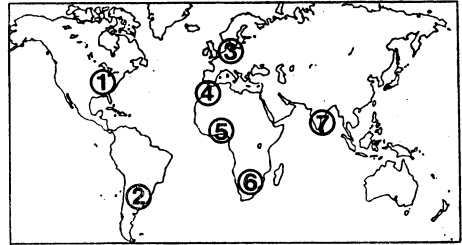
ウルグアイ、アルゼンチン北東部、パラグアイでは200~500mmの雨によって洪水が発生し、農作物と資産の被害が生じた。月降水量が平年の500%以上に達した地域もあった。被害が確認されれば、この地方では3年続いて大きな洪水が発生したことが明らかになる。

## 3. ヨーロッパ——暴風雨・洪水

発達した暴風雨のため、風水害が生じた。暴風雨の多くは2月5~10日に集中し、2月の後半は晴れた穏やかな日が多かった。西ドイツでは、融雪と雨によって水かさが増した河川があふれだしたため、ボンとケルンの一部が浸水した。

## 4. モロッコ——干ばつ

降水量が2カ月続いて平年の50%以下となったため干ばつが発生し、2年連続して冬小麦生産高が減少するの



ではないかと懸念されている。

## 5. 南アフリカ——干ばつによる電力不足

西アフリカの海岸部では長期間にわたる干ばつのため厳しい電力不足に陥っている。この状況はコートジボアールとガーナで特に深刻である。最近8カ月間の降水量は平年の28%ほどであり、水力発電量は急激に減少した。2月の末までに降水量は増加し、干ばつに救いをもたらしている。

## 6. アフリカ南部——高温・乾燥

アフリカ南部では、1月と2月の高温乾燥の天候のため、食糧農作物の生産高が平年の50%程度にまで減少する見込みである。このため厳しい食糧不足は来年まで続くと考えられる。去年の干ばつによって発生したモザンビーク南部の飢饉では、数千人が死亡し、数千人が隣接するジンバブエへ逃れたと伝えられている。

## 7. スリランカ——大雨・洪水

2月5~7日に135~200mmの大雨が降って洪水が発生し、25万人が家を捨てて避難したと報道されている。

(注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している)

(気候変動対策室 真野裕三)